

大沼法竜著

親
臨
聖
人
に
聽
く

敬
行
寺
発
行

は し が き

英國の詩人マーチン氏が彦根城に昇り、四方の景色を眺めつゝ、「小人は琵琶湖が見える、大人は日本が見える、偉人は世界が見える」と詩を作り、もし世界の情勢を察知し得なくて開港しなかつたなら、日本は恐らく英米仏露の殖民地に分割されていただろうと伊井大老を賛嘆した詩である。

俗人は文字が読める、僧侶は文意が読める、体験者は紙背が読める。

戦時中B 29が撃墜された中の日本の三世が、軍法会議で、祖国を爆撃するのは以ての外だと罵倒された時、平然と「早く降伏してもらいたかったからです」「馬鹿、わが帝国が降伏すると思ってるか」「それは米国の物量を知らないからです。都市はもとより村落に至るまで灰燼に帰すれば、日本の再起が不能になるからです。一日も早く平和を望んだから爆撃したのであります」裁判官も啞然としていた。

浄土真宗も真俗二諦、現当二世、金匱無欠と自負しているけれども、寺院の衰微、門徒の離散、ようやく読経、葬式で命脈を保持しているけれども、瓦解の寸前に到達しているではないか。なぜ金看板の文字に固執していて、不思議の仏智の体現をしないのだ。低級な新興宗教の猛煙に吹きまкруられて、氣息奄奄たる状態ではないか。毅然と立ち上る勇士はいないのか、猛然とこの難局を切り抜ける傑僧はいないのか、隆々と浄土真宗を荷うて立つ傑士はいないのか。

現生の救済を忘れて、死後の往生を夢見ている宗教は滅びる。

祖師の平生業成を忘れて、死後を有難がっている者は、祖師の真意を喪失していると同時に彌陀、釈迦二尊の本意に背いているから、宗教が衰滅するのは当然である。

演習は易いが、実戦は難しい。机上の空論は易いが、実地の体験は難しい。

艦綱を解かずに櫓を漕いでいるのも、舟の進む道理がない。実機を抜きにして法を眺めているのも、観念の遊戯をしているのも、摂取さるゝ筈がない。摂

取しゆされていないのだから、大だい歎たん喜きもなければ大だい懺ざん悔げもない、二に種しゆ深じん心しんが徹てつ底ていしていないのだから信しん仰やうはお留る守すなのだ、二に種しゆ深じん心しんがお留る守すなら贖にせ物ものの信しん仰やうだ、信しん仰やうが贖にせ物もので宗しゆ教きやうの大だい改かい革かくのできる筈はずがない。

宗しゆ教きやうが衰すい滅めつ離り散さんしているのは、真しん理りに背はい反はんしているからだ。信しん仰やうが萎い靡び沈ちん滞たいしているのは、仏ぶつ祖その意い志しに違い背はいしているからだ。

僧そう俗ぞく一たい体たいとなつて総そう決けつ起きし、起き死しかい回かい生せいの大手だい術しゆじゆつをしなければならない。その方ほう法ほうをいかかにすればよいかか祖そ師し聖しやう人にんにお伺うかいして、指し示じをあをあてて実じつ行ぎやうするより道みちがない。

聖しやう人にん様さまお願ねがい申上ます。

蟹かには甲こう羅らにお応おうじた穴あなをほ掘ほり、信しん仰やうも自じ分ぶんの進すすんだ程てい度どしかわからないのです。富ふ士じに登と山ざんしても、三ごう合ごう目めでも五ごう合ごう目めでも下げ界かいの景けい色しきが展てん開かいしているから、自じ分ぶんの程てい度どが本ほん当とうだと信しんじている、盲もう人じんが巨きやう象しやうをさすつて鬪とう争そうしているが、象しやう全ぜん体たいがみえないように、仏ぶつ法ぽうも各かく自じの程てい度どで安あん住じゆしている。化け土どの業ごう因いん千せん差さなるが故ゆえに、化け土どの結けつ果かも万まん

別べつです。皆みな私わたしの言葉ことばの真似まねをしてしているだけで、似にせている信仰しんじょうだから贗物にせものです。自信じしんが徹底てつていしていないから、神通自在じんつうじざいの無碍むげの大道だいどうを歩あゆんでいない。それで低級ていきゅうな濁流だくりゅうに押流おしながされて、信仰しんじょうが混乱こんらんしているのです。

それなら私わたしが徹底てつてい的に信仰しんじょうの質問しつもんさして頂いたきますから、聖人しょうじん様の御聖教おしようぎょうで御解答ごかいとうを願ねがい致いたします。